Medical Library 書評 新刊案内

本紙紹介の書籍に関するお問い合わせは，医学書院販売・PR部（03-3817-5650）まで
なお，ご注文は最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店へ

問題解決型救急初期診療 第3版

田中 和豊●著

B6変型・頁564
定価：5,280円（本体4,800円＋税10%）　医学書院
ISBN978-4-260-04732-6

評者 **薬師寺 泰匡**
薬師寺慈恵病院院長

救急外来では，迅速かつ正確に患者の病態を把握して，緊急性が高い場合には即時介入し，生命予後を左右するような疾患の除外をし，さらにはその場で行わねばならない処置を的確に行う必要があります。毎日がこれの繰り返し。しかし，患者さんは千差万別。同じ疾患でも，全く異なる症状でやってくることも多々あるので，毎日やみくもに働いているだけでは救急対応の能力は磨かれません。緊急性の判断や，除外診断を適切に行うには，膨大な時間と経験が必要になります。もちろん，不適切な修行は時間の無駄ですし，何をしてよいか悩んでいる時間すらリスクになるのが救急外来です。われわれには道しるべが必要なのです。

初期臨床研修は，研修医一人当たりかなりの数の救急車対応をする病院で学ばせてもらいました。が，当然最初は進むべき道がわかりません。途方に暮れる研修医に道を照らしてくれたのが，この『問題解決型救急初期診療』でした。まず行うべきことは当然網羅されており，症候から入る構成になっているので，実際の診療時と同じ思考過程をたどることができます。26の症状に始まり，外傷や熱傷，中毒，ショック，蘇生など救急医が専門とする分野，そして精神科救急までまとめられていますから，大部分の救急患者はこの一冊があれば対応可能で，少なくとも何をしていいのかわからないという状況には決してならないことが約束されています。確かな救急外来の道しるべ。これは救急外来のバイブルです。

バイブルの評価などできない!!

というわけで，書評を書いてくださいと言われ面食らいました。研修医のころから愛用し，後輩にもオススメしてきた，おそらく救急医であれば一度は目にしたであろう書籍の評価をしろというわけです。誰がバイブルの評価をできるというのでしょうか。まだ日本で救急科を掲げることすらなかった2003年に初版が出版され，20年にもわたり増刷改訂を続けて，現場の救急医に愛されてきたのです。その事実が書籍の価値を十分物語っております。

救急医として10年以上働いてきた上で，その価値を再確認しています。改めて読み直すと，最前線の救急医として考えるべきことが，きれいにトレースされたかのように記載されています。例えば，「30歳代女性，今朝からの腹痛」と搬入依頼が来たとしましょう。救急医は，「急性胃腸炎だろうか？」などと考えません。「外傷じゃないよね？　そうじゃなければ産科，婦人科疾患から考えようか……」となります。これがそのままフローチャートになって載っています。いや，これはむしろ，この本で勉強しこの本で型を身につけたからであって，すでにこの書籍は救急医の一部として道を照らし続けているだけということなのかもしれません。

改訂に当たり，COVID-19など，最新の情報も追加されています。参考文献もきちんと示されています。研修医から救急ローテ中にどの書籍を買うべきか尋ねられたら，自分のではなくこちらをオススメしています。

●書籍のご注文・お問い合わせ

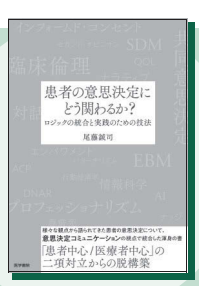
本紙で紹介の書籍についてのお問い合わせは，**医学書院販売・PR部**まで
☎(03)3817-5650/FAX(03)3815-7804
なお，ご注文につきましては，最寄りの医学書院特約店ほか医書取扱店にて承っております。

さあ、意思決定のテーブルへ。「患者の意思決定」の理論と実践を1冊にまとめました

患者の意思決定にどう関わるか？ ロジックの統合と実践のための技法

意思決定の連続である医療職の仕事。臨床倫理、EBM、プロフェッショナリズム、SDM、ナラティブなど、これまで様々な切り口で示されてきた理論をもとに、「患者にとって最善の意思決定」に専門家としてどのように考え、関わっていくかをまとめた渾身の書。AIの発展、新型コロナの流行など、社会が変わっていくなかで、これからの患者-医療者関係の在り方を示す1冊。さあ、意思決定のテーブルへ。

尾藤誠司



A5　頁248　2023年　定価：4,180円[本体3,800円＋税10%]　[ISBN978-4-260-05330-3]　医学書院

日本睡眠学会第45回定期学術集会開催

日本睡眠学会第45回定期学術集会（会長＝筑波大・柳沢正史氏）が，「Sleepless in Somnology and Chronobiology――睡眠と生物時計が面白くて眠れない」をテーマにパシフィコ横浜（横浜市）にて開催された。本紙では，ワークショップ「ウェアブルデバイスの将来性と問題点」（座長＝広島大・林光緒氏，広島国際大・田中秀樹氏）の模様を報告する。

◆低負担・低コストでビッグデータを集める

初めに登壇したのは，ゆみのハートクリニックの川名ふさ江氏。氏はウェアブルデバイスの臨床での受け止められ方について，順大循環器内科医師と虎の門病院睡眠呼吸器科・循環器内科医師からのヒアリング内容を交えて紹介。循環器領域では，ウェアブルデバイスにより発作性心房細動が確認でき，治療介入に至ったポジティブなケースもあったものの，体調に問題がない患者がデバイスからの忠告により不必要に不安をあおられたネガティブなケースもあるとした。また，睡眠においてはデバイスの判定精度が不完全なため現在何らかの治療につなげるのは困難であると言う。氏は，反復睡眠潜時検査（MSLT：Multiple Sleep Latency Test）という過眠の客観的評価を目的とする検査診断には睡眠日誌の情報が必須であるものの患者からの協力が得にくい問題に触れ，睡眠日誌をウェアブルデバイスで代用可能なのではないかという私見を述べた。

東大の南陽一氏は，加速度計を用いて行う睡眠・覚醒判定法と，それを活用した子ども向け睡眠健診の可能性について解説した。東大の研究チームは，ウェアブルデバイスを用いて得られた加速度データから睡眠・覚醒を精度・感度・特異度高く判定する簡便な方法であるACCEL法を開発。実社会のデータを用いた実験も行い，睡眠のパターンをグループ分けすることに成功した。現在は子どもを対象とした大規模睡眠解析に取り組んでおり，幅広い年齢層の子どもの睡眠データを計測することで，子どもの睡眠の全体像を客観的に正確に把握したいと語る。氏は大人向けの睡眠健診については仕組みが充実しつつあるものの，子どもについては十分でないとし，得られた結果を活用して今後子ども向けの睡眠健診を実現したいと話した。

シート型体振動計による睡眠モニタについて説明したのは，パラマウントベッド株式会社の木暮貴政氏。シート型体振動計はマットレスの胸の下あたりに敷き込んで使用し，得られる振動から呼吸数・心拍数，呼吸イベント指数，周期性体動指数などを測定するもの。1分毎に睡眠・覚醒を判定でき，リアルタイムかつオンラインで睡眠状態がわかるため，現在は介護施設の見守り支援システムとして普及している。睡眠を妨げないように覚醒時に訪室することができるため，本人のQOL向上と介護者の負担軽減が見込まれるという。氏は「普及している見守り支援システムの睡眠データを利用した，今後のさらなる研究が期待される」と語った。

筑波大の鈴木陽子氏は，活動量計と睡眠モニタを比較しながら腕時計型睡眠計測装置のメリット・デメリットについて発表した。活動量計は医療機器として承認されており，概日リズム睡眠・覚醒障害や不眠症などの診療に用いられてきたものの，じっとしている時間を睡眠としてカウントするため，実際の睡眠時間とデータの乖離が見られる。一方，近年市販されている睡眠モニタは睡眠・覚醒判定精度が向上し，さらに睡眠段階判定ができる。しかし研究の結果，睡眠段階判定の精度にはまだ課題が残るという。睡眠の問題を過大評価すると余計な不安を生み，過少評価すると治療の遅れを生むとし，できることと限界点を理解して機器を利用することが大切と強調した。氏は，将来的にビッグデータや機械学習の活用で睡眠段階判定精度が向上し，個別化医療へ活用できると未来への可能性を示して発表を終えた。

最後に，睡眠評価研究機構の白川修一郎氏が登壇し，睡眠ポリグラフ検査（PSG）による睡眠評価（脳波的睡眠評価）とウェアブル/ニアブルデバイスによる睡眠評価（行動的睡眠評価）は異なるものであることを理解して活用するのが望ましいと強調。ウェアブル/ニアブルデバイスは睡眠中の多種類の生理指標を低負担・低費用で長期にわたって同時測定できるため，ビックデータの蓄積が容易であり，また睡眠をPSGとは異なる視点から解析できる可能性があると述べた。ウェアブル/ニアブルデバイスの活用を進めるためには，現在メーカーによって異なる結果が出てしまう睡眠の測定結果を統一する必要があり，またデバイス・アプリ間の睡眠に関する用語の統一や測定データの使用可能範囲，AIのアルゴリズムの明確化などが必要だと指摘した。

MEDSiの新刊

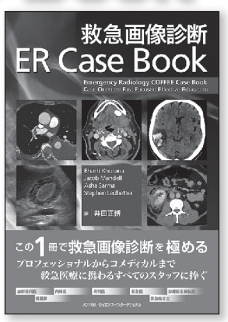
この1冊で救急画像診断を極める!

救急画像診断ER Case Book

Emergency Radiology COFFEE Case Book:
Case-Oriented Fast Focused Effective Education

●訳：井田正博　水戸医療センター放射線科 部長
●定価9,900円（本体9,000円＋税10%）
●B5 ●頁700 ●写真1388・色図23 ●2023年 ●ISBN978-4-8157-3079-6

▶迅速かつ正確な画像解釈による病態把握が求められる救急画像診断のノウハウが蓄積された、ハーバード大学医学部ブリガム・アンド・ウィメンズ病院の教育コースのメソッドをもとに、同病院のスタッフにより執筆された決定版。ケーススタディ形式で症例画像（非外傷性疾患54症例・外傷性疾患31症例）を提示し、鑑別診断についても300を超える豊富な画像を添えて解説。全身を網羅した広範囲にわたる知識・スキルを効率的に向上させたい、放射線科、救急科の専門医やそれを目指す専攻医に最適。



救急・集中治療関連雑誌

最新号 **BeyondER** ビヨンダー Vol.2-No.1
●特集1：ドクターカー＆ヘリ運用の今を問う ●特集2：心肺蘇生
●一部定価3,520円（本体3,200円＋税10%）　●ISBN978-4-8157-2059-9

最新号 **INTENSIVIST** インテンシヴィスト Vol.15-No.3
●特集：Critical Care Nephrology
●一部定価5,060円（本体4,600円＋税10%）　●ISBN978-4-8157-2053-7

MEDSi メディカル・サイエンス・インターナショナル　TEL 03-5804-6051　https://www.medsi.co.jp
113-0033 東京都文京区本郷1-28-36鳳明ビル　FAX 03-5804-6055　E-mail info@medsi.co.jp